

# 長崎県 母子連のあゆみ

発行日／令和7年3月

発行／一般社団法人 長崎県母子寡婦福祉連合会

長崎市茂里町3番24号 長崎県総合福祉センター県棟1F

TEL(095)846-8722 FAX(095)848-7456



ごあいさつ

長崎県福祉保健部こども政策局長 浦 亮治

穏やかな日差しに春の訪れを感じる季節となりましたが、皆様方におかれましては、一層ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、皆様方には日頃から県政に対しまして、温かいご理解とご協力をいただいておりますことに、厚くお礼を申し上げます。

令和5年度には本県で初めてとなる全国母子寡婦福祉研修大会が貴会の多大なご尽力により盛大に開催されましたことが記憶に新しいところですが、令和6年度におきましても、昨年7月に長崎県母子寡婦福祉研修大会が波佐見町で開催されました。私も出席させていただきましたが、地元の皆様をはじめ多くの関係皆様方の交流により有意義な大会になったものと考えております。

さて、ひとり親家庭を取り巻く状況は、物価の高騰など依然として厳しい現状にあり、日々の生活においても、大きな影響を受けていらっしゃるごこととご推察いたします。こうした中、貴会におかれましては、各地域において、ひとり親家庭の方々との交流や母子相談援助員・若年リーダーの育成など様々な活動を通して、母子・寡婦の方々の生活の安定にご尽力されておりますことに深く敬意を表し、心から感謝申し上げます。

国におきましては、「こども未来戦略」が決定され、ひとり親家庭に関する施策では、就労支援事業等の対象要件の拡大や支援体制の強化、児童扶養手当の拡充等が盛り込まれました。一方で、先般、こどもの利益を確保することを目的として、父母が離婚した後も双方が子の親権を持つ、共同親権を可能とする民法改正法が成立したところであり、今後こうした社会環境の大きな変化に的確に対応していく必要も生じてまいります。

こうした国の動向も踏まえながら、県におきましても、子育て支援などのこども施策を県政の基軸として位置付けたうえで、こども分野を重点分野の一つに掲げた「新しい長崎県づくりのビジョン」の実現に向け、各種取組を進めております。

仕事と子育てを一手に担わざるを得ないひとり親家庭は、いわゆる「時間の貧困」に陥りやすく、親子で心穏やかに過ごす時間を持ってないといった課題等も指摘される中、ビジョンでは、「こども時間」の確保もあたい姿の一つに掲げたところであります。子育てや生活支援の一層の充実、養育費の確保など、ひとり親家庭へのきめ細やかな支援について、引き続き、積極的に取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後ともなお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様方の今後益々の御健勝と御多幸を心からお祈りいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



ごあいさつ

理事長 松本 幸子

会員の皆様には、日頃から母子会の活動に多大なるご協力を頂き、心からお礼を申し上げます。

令和7年は、昭和100年目にあたり、また、戦後80年という節目の年でもあります。

昨年、日本被団協がノーベル平和賞を受賞されたことは、長崎県に生まれたものとして、大きな喜びでした。同時に戦後まもなく母子保護連盟等を立ち上げられた先人の方々に對し、尊敬の念を改めて抱きました。現在の連合会の基礎はS33年に設立され、今年で73年が経過しましたが、年数が経っても相互扶助の思いは現在も脈々と継続されております。

しかし、最近の物価高騰はひとり親にとって、大変厳しいものとなっております。何とか工夫して乗り越え、子供たちが新しい環境へ力強い一歩を踏み出せるよう願っております。また、支援事業についてもローソン様の奨学金(4名)、吉川金属様から高校入学お祝い金(5名)、カザマランドセル様からの贈呈、食材(こども家庭庁)備蓄米(農水省)の配付など多方面から様々なご支援を受けております。子育て中のひとり親家庭にとっては、大変有難く家計の助けになっております。

更に、学習支援事業についても、県下に幅広く浸透するように願って止みません。

それから、令和6年度は東彼杵郡(田坂会長を先頭)にて、県大会が行われ、県下各支部会員の皆様のご協力と、(県)こども家庭課様、東彼杵郡の3町の職員様、社協の職員様の親身なご支援を頂き、盛会のうちに終えることが出来ました。関わって下さった全ての皆様に、感謝を申し上げます。

令和7年度は(松浦市・平戸市・佐々町)の3支部合同で7月27日(日)に松浦市文化会館にて開催予定です。大会に向けて準備を進めております。松浦市の「竜王太鼓」や佐々町の「神田雅楽」のご披露が予定されています。関係者一同頑張っておりますので、ご支援とご協力をお願い致します。会員の皆様に多数参加して頂き、楽しい大会に致しましょう!



この会報は、共同募金の配分金によって作成されたものです。



## 全国大会（富山）に参加して



雲仙市母子寡婦福祉会 新垣 由美子

10月27日に富山市にて令和6年度全国母子寡婦福祉研修大会が開催され参加させていただきました。

こども家庭庁ひとり親家庭等支援室室長による行政説明とシンポジウム形式の研修討議が主な内容となっていました。

全国統一活動テーマの母子に関するテーマとして『目指そう自立、活かそう支援策』、ひとり親・寡婦に共通するテーマとして『未来へつなぐ、世代の輪』、ひとり親家庭の子どもに関するテーマとして『すべての子どもに安心と希望を！』がありますがそれぞれのテーマに対して二人ずつ計6人の発表がありました。どの発表も自分の経験に基づいた心からの言葉で聞き手の気持ちを揺さぶる素晴らしいものでした。（詳細は県母連ホームページに全文掲載していますのでご覧ください。）

<http://www.nagasaki-kenboren.or.jp>



## 中国・四国・九州大会に参加して



東彼杵郡母子寡婦福祉会 田坂 智子

令和6年9月21日に中国・四国・九州地区の大会が広島のアゼリアおおたけで開催されました。

研修討議では、三人の方々の発表をお聴きして、「やっぱり母子会は必要だな。」と母子会の必要性を改めて考えさせられました。

社会のニーズが変われば、母子会のニーズも変わっていくことと、ひとり親を応援する、ネットワークが

広がると、色々出来ることも広がっていくと、コーディネーターの方が言われていましたので、今から私達母子会は、どの様に進んで行けばいいのかを考えさせられました。

更に、広島東洋カープの秋山翔吾選手のビデオレターを拝聴して、子ども達に、夢を諦めない事を私達は伝えていかなければいけないし、どこかで応援をして頂いている方々と縁を持てる様に動けたらどんなにか素晴らしく、心強い事だろうと、考えさせられました。

この大会を通して、やはり今のままではなく、変わらなくてはいけないと感じ、行政や地域の方々と一緒に、ひとり親家庭に寄り添える様に、希望を与えられる様に前に進んで行きたいと思いました。（詳細は県母連ホームページに全文掲載していますのでご覧ください。）

<http://www.nagasaki-kenboren.or.jp>





## 諫早市

## 「諫早市母子相談協助力員研修会」

諫早市母子寡婦福祉会 島田 美知子

母子相談協助力員研修会を去る2月22日に諫早市社会福祉会館で実施しました。諫早市子育て支援課主任笹口英士様と母子父子自立支援員古泉奈穂様に福祉資金貸付金制度の講義をしていただきました。福祉資金貸付金は①事業開始資金②事業継続資金③修学資金④技能習得資金⑤修業資金⑥就職支度資金⑦医療介護資金⑧生活資金⑨住宅資金⑩転宅資金⑪就学支度資金⑫結婚資金の12種類の資金があることがわかりました。利子は無利子か



年1%かかる貸付金。償還期間も3年から20年など資料に従って講義して下さったのでわかりやすかったです。諫早市母子相談協助力員さんは7割が寡婦会員さんで3割が若年母子会員さんです。福祉資金の貸付金は約9割が児童の修学資金関係との事です。利用する方はほとんどが若年母子の方です。今回の講義は、母子相談協助力員だけでは無く若年母子に聞いてほしかったとの感想がありました。若年母子様の参加を望みます。

## 新上五島町

## 「交流会を通して地域を知る」

新上五島町母子寡婦福祉会 島本 香千代

昨年10月20日(日)新魚目支部で恒例となった三回目のバスハイク交流会を行いました。

今回は体験を主として、曽根教会のすぐ近くにあるつばき体験工房におじゃましました。

つばき油搾油は初めてのことで、杵でつばきの実を潰したり、機械で搾るところや、つばきの生産量が全国2位などと知り、驚きでした。

搾ったつばき油もお土産に頂き、時々髪につけています(艶が出るように)。

お昼は生活館に移動し、地域食堂を月1回開いている、うらくわお互いさま隊「えにし」さんにお世話になりました。

ちらし寿司やイモ煮をおいしく頂き、楽しい時間を過ごしました。

上五島は私にとって地元ですが、知っていても行ったことがなく、内容を知らないことが多々あります。

こうして会員の皆さんと共に、年に数回集まって楽しみながら地域のことを知るのがとても有意義であり、今後も続けていきたいと思っています。



## 佐世保市

## 「講演会開催について」

佐世保市母子寡婦福祉連合会 荒木 雅美

令和7年2月2日（日）に「朝倉千重子講演会 in 佐世保」を佐世保市母子寡婦福祉連合会主催で開催しました！

女性の自立を長年支援されてきた朝倉先生をお招きし、学びを深めることが目的です。

講演会は一般の方も参加可能にし、当日は100名の方々が集まりました。下は5歳～上は90歳の幅広い年齢層の女性たちです。

まず最初に、昨年の学習支援に参加してくれた黒川博人君に英語で母子会の活動紹介をしてもらい講演会がスタート！しつけの三要素と礼儀礼節の大切さについて学び、お辞儀の所作指導もあり、時には笑い、時には涙する90分の内容でした。

今の自分は支援される側であっても、経済的にも精神的にも自立し、いつか支援する側になることを目指そうと思った数年前。その為にも、大人になっても学べる講演会に参加でき感謝しました。



## 東彼杵郡

## 「体に良い味噌玉作り」

東彼杵郡母子寡婦福祉会 田坂 智子

東彼杵郡母子寡婦福祉会の行事として、味噌玉作りを川棚町公民館で講師の方をお呼びして行ないました。

初めに「毎日ちょっとずつ発酵食習慣を!!」というテーマにそって話をされました。

体にとって、毎回の食事がいかに大事かを説明され、体に良い発酵食を、毎日簡単に取れる今回の味噌玉の、作り置きをすすめられました。お湯をそそぐだけで、簡単に味噌汁が出来ますので、忙しい時にはピッタリです。



材料の味噌とだし粉、後は乾燥わかめ、揚げ玉、乾燥ねぎをよく混ぜ合わせ、丸めます。今回は、この味噌玉にお好みの乾燥野菜やごま等を上にのせ、個性豊かな味噌玉を作る事が出来ました。参加された皆さん、本当に楽しく味噌玉を作る事ができました。ラップに包み保存もできますので、味噌玉を喜んで持って帰られました。





## 佐々町

## 「窯焼きピザ手作り体験」

佐々町母子寡婦福祉会

令和6年11月10日、佐々町母子寡婦福祉会ではピザ作り体験を行いました。お店の方に教わりながら生地を伸ばし、具材を乗せ石窯に入れて数分…こんがり焼けたピザと良い香りに歓声が起こりました。大人も子供も和気あいあいとピザ作りや交流を楽しむことが出来ました。

ぼくは、カレー味のピザを作りました。火が真っ赤に燃えている大きなかまどで焼いたら、生地がほこほこふくらんで面白かったです。食べるとほっぺが落ちそうでした。お母さんと半分こするつもりだったけど、おいすぎたので、ほとんど一人で食べました。 新井 ちはや



わたしはお母さんと、はじめてピザ作り体験をしました。もちもちの生地をまるくのばすのが大変だったけど楽しかったです。具をのせる時に、玉ねぎとピーマンはきらいだったので、お母さんのところにのせました。かまの近くはとてもあつくてすぐ焼けてびっくりしました。お友達とお母さんの作ったピザはとてもおいしかったです。 西村 しずく

## 長与町

## 「感謝・感激!!学習支援」

長与町母子寡婦福祉会 永田 梨恵

今年度は更に充実した学習支援活動をしていただきました。

「どんなことを取り入れたら子ども達がワクワクして楽しいかな」と毎回考えてくれているのだと思います。

毎回、子どもたちが自分の課題や宿題を終えた後にお楽しみがあります。宿題や課題はボランティアさんが優しく教えてくれます。お楽しみの中で印象に残っているのは、プログラミングロボちゃんの登場！子どもたちは苦戦しながらも、夢中になって進めたい方向に協力して動かしていました。また行事や季節に合わせた折り紙は、普段家ではないので親子で無心になれる時間でした。

シーグラスを使った工作は、怪我をしないようにと角を削って材料の準備をしてもらい、重曹アートは初めて知ったのでびっくりしました！芸術です!!ペットボトルキャップを溶かして作ったしおりは、今も娘が活用しています。そして、夏には BBQ、冬はクリスマス会と有意義な時間を本当にありがとうございました。来年度も子ども達と一緒に、学び笑いあって思い出を残していきたいと思います。



## 雲仙市

## 「若年部の活動について」

雲仙市母子寡婦福祉会 新垣 由美子



今年度から母子部長を務めさせていただいております雲仙市の新垣です。他市の皆さんとは年2回の若年リーダー研修会でお話する機会がありますが、それぞれ工夫してその地域での様々な活動に取り組んでいただき感謝しております。今年は食品支援やランドセル配布、学習支援などで若年の会員が増えたと聞き、地道な支援活動が会員増強には一番なんだと改めて感じました。雲仙市でも母子の方に参加してもらい、バス旅行やクリスマス会を開催しました。年々子どもたちの参加も増え、大にぎわいの行事となっております。子ども達喜んでくれることがお母さんたちにとっても会員でいる事の魅力となると思うので、子どもたちに喜んでもらえる支援は何かを考えて実行していきたいと思います。



## 平戸市

## 「ピザ作りと芋ほり」

平戸市母子寡婦福祉会 濱野 久仁子

私たちは毎年母と子のふれあい事業として、西海市の元気村へ行くようにしています。

今年はミカン狩りと思っていたのですが、天候の都合でみかんが不足の為、ピザ作りと芋ほりを行いました。

バスの中では、子ども達とクイズをしたりして、子どもさん達にも有意義に過ごすことが出来ました。





## 西海市

## 「沖縄研修に参加して」

西海市母子寡婦福祉会 橋口 広美

令和6年6月13日から16日まで岸川会長以下6名、合計7名で、沖縄県へ研修に行って参りました。天候も心配されましたが、沖縄に着く頃には雨も止んでホッとしました。

着いたその足で、沖縄県母子寡婦福祉連合会の理事長様、事務局長様との事業・活動等の研修会。沖縄県の活動等を説明紹介して頂きました。

沖縄県母子寡婦福祉連合会さんは、九州でも積極的に活動されている先駆者的存在で、とても興味深くお話を伺う事が出来ました。その中で、「ひとり親家庭生活支援事業」をされている「沖縄県マザーズスクエアゆいはあと」が、3拠点ありその中でも今回民泊でお世話になる谷口様の「マカイ家」の近くに「ゆいはあと北部（本部町）」があるので是非見学して行って下さいとの事で、急遽、翌日見学させて頂く事になりました。その中で、毎年西海市母子会にお米を頂いている谷口さんが沖縄でも母子会に匿名でお米を寄付されていることを知り本当に「凄いな。」と尊敬しました。

民泊『マカイ家』では、おばあ（奥様）の沖縄料理でもてなしを受け、どんな経緯で、大瀬戸の雪浦から沖縄の古宇利島に来て民泊をしたり、母子会にお米を寄付して頂けるようになったのかなど時間の過ぎるのも忘れてお話を伺いました。

今回沖縄研修に参加して本当に勉強になることが多かったです。

只、西海市に置き換えてみたとき、どれだけ落とし込めるか？かなりハードルは高いです。まず出来るところから一歩ずつ出来たら良いな思っております。

次の若い世代にバトンを渡すまで・・・。



## 南島原市

## 「夏休みクラフトバンド籠づくり」

南島原市母子寡婦福祉会 平 久美



令和6年の夏休みに、市内のクラフトバンドエコロジー協会認定講師の先生を招いて、クラフトバンドで籠作りを体験しました。初めての体験で、上手くでき上がるか心配でしたが、先生の前準備の協力もあり、四苦八苦しながらもみんな真剣に作り、オリジナルの籠ができました。

バンドの色も様々で一人ひとり違う籠、出来上がった籠に何を入れようかなと、それも楽しみに持ち帰りました。自宅に持ち帰ると手作りなので、ますます愛着がわき喜びも倍増でした。

私はドリップコーヒーやお菓子を入れています。普段使いできて満足しています。子どもも少人数でしたが参加してくれて、出来上がった籠を嬉しそうに持ち帰っていました。

体験できる事業は視野が広がり参加者からも好評です。今後も身近な講師を発掘して、実施していきたいと思います。



## 吉崎市

## 「研修大会に参加して」






吉崎市母子寡婦福祉会 市山 文子

「つなごう人の輪・守ろう地域の輪」をスローガンに、長崎県母子寡婦福祉研修大会が、令和6年7月28日（日）波佐見町総合文化会館で開催されました。うっかり？体験発表との大役をお受けしてしまい、原稿についての不安や、会場への道程を思案する日々でした。

船、新幹線、バスを乗り継ぎ、汗だくで会場へ辿り着きました。会場では、理事長様、理事の皆様、コーディネーターの浦川先生、担当地区の福祉事務所の方々と、2名の方の発表を聴き感動し、大会が進むにつれ、大会に参加させて頂き、発表の貴重な体験もさせて頂いたこと、深く感謝の気持ちで一杯になりました。

吉川金属商事様の御祝い金制度の事、食材（備蓄米）配布の活動、全母子協とローソングroupでの奨学金制度のこと、人の輪をつないでいきたいと思っています。

### 令和7年度から、子供3人以上の世帯への大学等の授業料等の無償化を拡充します！ （「高等教育の修学支援新制度」の拡充）

開始時期	令和7年度～（入学生及び在学生） <small>※4年制の大学であれば、1年生だけでなく、2～4年生も対象となります。</small>	所得に関する要件	所得基準 制限なし
支援対象	子供3人以上の世帯の学生	学修意欲・成績に関する要件	採用前 学修意欲があれば採用 採用後 学修意欲と成果を毎年確認
支援金額	授業料 70万・入学金 26万 <small>（私立大学の場合、4年間で最大70万円×4年+26万円を支援） ※現金支給ではなく、各大学の授業料等が免除されます。</small>	※「高等教育の修学支援新制度」における各要件の詳細やQ&Aについては、文部科学省ウェブサイトを確認 	
申込手続	令和7年度入学後各学校窓口で <small>（各学校を通じて、日本学生支援機構へ申し込みます）</small> <small>※令和8年度進学予定の高校3年生から、令和7年度中に申請の予約申込が可能となります。</small>		
<b>扶養する子供が3人以上の世帯が対象</b>  <small>※○が母子世帯の支援対象</small> <ul style="list-style-type: none"> <li>3人以上を同時に扶養（経済的に支援）している間は、第1子から支援対象</li> <li>第1子が就職するなど、扶養から外れた場合は支援対象外</li> </ul>		<b>税情報（マイナンバー）で扶養する子供の数を確認</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>学生と生計維持者のマイナンバーを通じて、世帯で扶養する子供の数の情報を確認</li> <li>子供の数の情報は、毎年12月31日時点の情報が基準</li> </ul>	
		<b>要件を満たした学校が対象</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>一定の要件を満たした学校が対象（大学・短期大学・高等専門学校（4・5年）・専門学校）</li> </ul> <small>対象となる大学等の一覧はこちら</small> 	

※本内容は、国会提出中の令和7年度予算案及び大学等における修学の支援に関する法律の一部を改正する法律案の成立を前提として、速やかに事業を開始できるようにするため、事前にお知らせするものです。



## 2025年度

全母子協  
ローソンググループ

## 夢を応援基金

## 『ひとり親家庭支援奨学金制度』



**奨学金** 月額 30,000円  
(返還不要、他の奨学金との併用可)

**募集数** 全国 400名（各都道府県4名～）

**対象学年** 中学校3年生、高等学校（1年～3年）  
高等専門学校（1年～3年）  
等に在籍する生徒（2025年4月時点）

**応募資格**

- ①ひとり親世帯（母子・父子家庭等）であり就学に関して経済的に困難な生徒
- ②夢を実現するための意欲があり、社会貢献への積極的な姿勢のある品行方正な生徒
- ③全国母子寡婦福祉団体協議会（全母子協）加盟団体（居住地域の団体）の会員、及び入会を希望する方の子ども（生徒）
- ④会員又は入会を希望する加盟団体代表者が奨学生として推薦するに相応しい生徒

※その他公募資格が細かく設定されています。申請用紙等は全母子協のホームページより取得ください。  
印刷はコンビニエンスストア等で可能です。

問合せ先：長崎県母子寡婦福祉連合会 ☎095-846-8722



この会報は、共同募金の配分金によって作成されたものです。